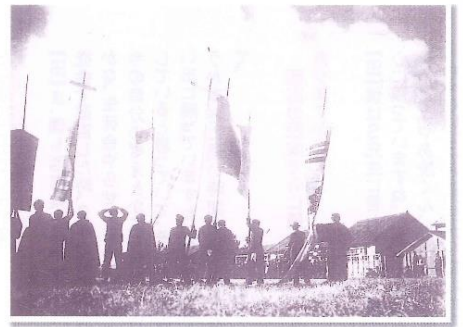
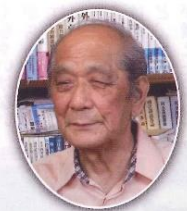


ストームのあれこれ



昭和21年頃 旧佐賀高等学校のストーム

「大先輩に聞きました」



本村安次さん

昭和四年生れ、昭和十七年佐賀中学校入学、在学中に海軍兵学校に進むもその年終戦になり復員して佐賀中学校四年生に編入、旧制佐賀高等学校現佐賀大学から名古屋大学へ進学。大学院在学中昭和二十九年に新制佐賀高等学校(現佐賀西高等学校)に英語教師として着任。以来佐賀高等学校に十年間、佐賀西高等学校に二十二年間、通算三十二年間奉職。現在旧制佐賀高等学校同窓会幹事。

「ファイヤーストームの歴史」「伝統の炎を守ろう」

明治元年新政府は旧幕府の昌平坂学問所・開成所・医学所を復興し、明治十年に東京帝国大学を設立します。しかし、当時の教授は外国人であったため欧米語の履修を義務づけ国立東京英語学校(東京大学予備門)を設立します。これがのちの第一高等学校です。次いで第二高等学校(仙台)、第三高等学校(京都)を設立、名古屋の八高以降は地名をつけた高校になります。国立の旧制高校は全国で二十六校(終戦時には国立・公立・私立合わせて三十八校)となり、旧制佐賀高等学校は十五番目にあたります。

当時は大学も高等学校も教授の多くが欧米人でしたので、欧米風に学校は九月に始まり、七月に終わりました(四月始まりは大正十年から)。入学式・卒業式は通常夕方六時から始まり、式後新入生の歓迎会や卒業生の送別会が、暗いので篝火(かがりび)を焚いて行われました。これは戦国時代の出陣式・戦勝式などの篝火に由来したものだといわれています。

明治二十年に詰襟の制服と制帽が制定されましたが自由と自治を標榜する当時の高校生は豪放・放埒で、紺(かすり)の着物と破れ袴(はかま)で押し通す学生も多数いました。

起源の特定は難しいですが、明治三十年頃にはよく知られている形のストームが存在していたようです。

やがて昭和に入り戦況の悪化により旧制高校生も戦争に動員されストーム及び伝統の継承がままならず沈黙化していききました。

昭和二十年に終戦を迎え、学生達も学校に戻り、私は旧制佐賀高校に進みました。在学中は学生服にマント、時には羽織で登校したものでした。そのころの思い出として、旧制の佐賀高校と福岡高校は毎年秋に、野球・柔道・剣道・テニスなどの交歓試合を行っていました。福岡高校は博多駅前で歓迎ストーム、佐賀はそれに対して答礼ストームで応じました。その間は電車もバスもその他の車も一切止まりました。次いで駅から福岡高校まで大太鼓を叩いてぞろぞろと市内を歩きました。北筑遠征歌一は福岡高校との対抗試合のための遠征歌です。今にして思えば古き良き時代でした。

昭和二十五年の学制改革により旧制高校は廃止され、佐賀では佐賀中学は佐賀第二高校となり、翌年新制佐賀高校が誕生します。新制佐賀高校では新しい伝統を創造するため、教職員や生徒の努力の結果、第二回生の時に、旧制高校で行われていたファイヤーストームと寮歌・追遠歌・部歌などが採用され、その後それは西高に継承されました。しかし、第二代森一郎校長の時にストーム存廃論が持ち上がり、自由と自治の精神を謳歌する青春感激の象徴であるストームとして、森校長の英断によって存続となり、現在に至っています。

寮歌・追遠歌・応援歌は学校共同体の歌として、真善美(しんぜんび)への青春の歌であり、その底にはロマンチズムが滔々(とうとう)として奔流(ほんりゅう)しているのです。質実剛健(しつじつこうけん)・動侯尚武(きんけんしやうぶ)・弊衣破帽(はいいぼぼう)によって象徴される旧制高校の校風は、戦後の新制高校に引き継がれ、それがストームと寮歌・応援歌に凝縮されていると考えます。しかし現在全国の高校でストームを行っているのは、ごく僅かの学校にすぎません。

最近、時代に閉塞感の中で古い歴史を土に刻んだ香り高い文化が、やがて時代錯誤として否定され、今後再びストーム廃止論が論議の対象となるかも知れませんが、皆さんはどのようにお考えでしょうか。私としては、佐賀高等学校より伝わるこの伝統を西高生の皆さんに延々と引き継いでいただきたいと思っています。

ストーム

Storm(嵐)を語源とする。旧制高等学校や大学予科、旧制専門学校、新制大学などの学生寮において学生が行うバカ騒ぎのこと。学校当局や寮の規則によって、時間帯や試験期間中などにはストームを禁止していたが守られないことが多かったという。歓迎ストーム、返礼ストーム、街頭ストーム、ファイヤーストームなどがあるが多岐にわたる。



昭和59年頃 佐賀西高等学校のファイヤーストーム



昭和35年頃 新制佐賀高等学校と修猷館高校との交歓ストーム

ストームを終えて 生徒たちの感想

三年 男子
自分達もきつ練習を耐え、後輩達にも、苦しいことを強いる立場になりましたが、後輩達もすっかりやってくれて、また本番でも精一杯に歌ってくれている姿を見て感動しました。この経験は、自分を人間として成長させてくれたと思います。

炎嵐という行事を通して、改めてこの学校の伝統の素晴らしさを肌で感じる事ができ、それにリーダーとして関わることができたことに感謝したいです。また後輩たちにはこれらの伝統をしっかりうけついでいてほしいです。

最高のストームそれはなんなのか、今年のストームリーダー達はいろいろなことを考えながら進めていった。今年には新たな陣形も取り入れた、今年とは限内で二高しか行われない前夜祭、その前夜祭をする意味、ただ楽しただけの前夜祭にのんの意味があるのだろうか、日本中へ羽ばたいていく西高生、勉強だけではリーダーにはなれない、やはり人格も大切だ、そのようなものを鍛えるのがこの前夜祭である、私は思う。どつしりと構えているストームリーダー達はすごく恐怖である。西高祭準備期間は学校に行きたくない日だ、だからもしれない。それでもいいか、いやいやいや、本当に自分ではどうしようもない状況に陥る。でも、そんな時気づくはずだ。「変わらなければ」そうした状況にするのがストームリーダーの役割であると思う。

ストームを通して人格が変わっていく人を見た。成長していく人を見た。全員が人格が変わるなんて無理かもしれない。しかし、全員がこれからの人生の糧になる、私は確信している。

今全員に考えてほしい。どれだけの人のおかげで前夜祭ができていたのか。保護者の方々、先生方、近隣の方々、そして、歴代の先輩方、多くの人の協力により今年も当たり前のように炎嵐の炎を閉むことができた。

私はこの西高でみんなで最高のストームを作り上げたことを誇りに思う。

私はこの西高でみんなで最高のストームを作り上げたことを誇りに思う。